

ネパール

ヘルスチェック・プロジェクト

概要：1997年、無医村を巡回して無料の健康診断と薬の無料配布を開始した。生活環境と食生活から病気になる確率も高いため栄養指導と衛生教育も同時に行っていた。2013年、チトワン郡メゴウリ村の診療所「ワールド・ピース・ヘルス・サービス・センター」の運営支援を開始。この診療所では週3回医療行為もできる看護師兼薬剤師が対応し、妊婦に対しては保健師が24時間対している。毎月70～100人ほどの村人が利用し、手当てと薬の処方を受けている。

進展状況

①乳がん・子宮がん・婦人科検診

[2017]

5月20日、チトワン郡バラトプルのプレジャティ・シクシャ・サダン学校にて乳がん・子宮がん・婦人科検診、薬配布を実施。医師4人、看護師9人、WFWPネパール会員12人、教師5人、その他5人のスタッフがボランティアで参加。今回検診を受けたのは7歳～90歳の201人の女性で、受診者の90%が骨盤内炎症疾患と診断された。その他、子宮異常出血、子宮頸部UV脱出およびポリープと診断される人もいた。今回の検診で手術が必要な人は、指定された病院へ行けば無料で治療を続けることができるよう措置された。貧しい農村地域のため、無料で検診を受けることが出来た女性たちから、非常に感謝された。

[2018]

● 11月3日、ネパール東部のスンサリ郡イタハリ・サブ・メトロポリタン市のラムジャナキ老人ホームにて無料眼科検診を実施。ネパールネトラジョティ協会とイタハリ・アイケアセンターの協力のもと、医者2人、看護師3人、薬剤師2人、WFWPネパール会員14人、地域のスタッフ20人がボランティアで参加。45歳～55歳の男女173人が受診した。

多かった症状は白内障33人、翼状片6人で、手術の必要な患者には無料で実施し、受診者の7割に無料の薬を処方した。白内障手術を受けた患者からは「目がはっきりと見えるようになって生活がしやすくなったので嬉しい。無料でありがたい。助かった。」との感想があった。

● 12月8日、チトワン郡メゴウリ村のメゴウリ・ヘルス・センターにおいて、チトワン癌病院、チトワン大学病院、メゴウリ・ヘルス・センターの協力のもと、医者2人、看護師2人、薬剤師1人、WFWPネパール会員3人、地元スタッフ3人で、婦人科及び内科の健康診断、薬の無料配布を実施。0歳～55歳の男女106人が受診。

多かった症状は、月経不順、避妊手術後の傷の異常、子宮筋腫、胃腸不調、風邪症状など。受診者から、「婦人科の医師が女性で良かった。定期的にこのような無料の健康診断があったら有り難い。」などの感想が寄せられた。

②メゴウリ村の診療所「ワールド・ピース・ヘルス・サービス・センター」

[2017]

● 8月に大雨による浸水で、診療所の多くの薬や医療用具が使用できなくなったため、約2万円分の薬を支援した。この月は水害で体の不調を訴える住民たちが多く、1ヶ月の患者数としては最多の137人が受診した。

● 診療所利用者4人にヒアリングし、貧しい暮らしをしている住民にとって、歩いて行ける距離に診療所があり、薬も安く買えるので大変役立っているという事が分かった。

[2018]

- 2018年度の患者数は670人で、2013年開所から延べ4,110人が受診。風邪、高血圧、胃腸疾患、呼吸器系疾患、婦人病、栄養失調、皮膚病等が多いが、野生動物に襲われた患者の救急手当、妊産婦・乳幼児に関する緊急処置なども実施。
- 自家発電システムを導入し、電気が使えるようになり、扇風機も設置し暑さ対策が改善され、診察台にマットレスを敷き設備を充実した。
- 医療従事者のユニフォームを揃え衛生的になった。



無料眼科検診



「ワールド・ピース・ヘルス・サービス・センター」に薬の寄付



薬の配布

アジア



カンボジア

【対象】 タケオ州のワットアン中学校とその他の小学生から高校生までの孤児・片親・貧困家庭の児童・生徒

【支援期間・金額】 年間 18,000 円を支援。100 ドル分を里子へ支援し、残りは経費。(レートにより変動あり) 100 ドルは 3 回に分けて支給。

【開始年度】 1996 年

【里子数】 (2017) 139 (2018) 76 【里親数】 (2017) 119 (2018) 68



タイ

【対象】 メーホンソン県バンファイシン学校の中学 1～3 年生と同校を卒業した高校 1～3 年生

【支援期間・金額】 中学生は 1 年間 15,000 円 (事務費 3,000 円含) を 3 年間。寄宿舎代、制服代、文房具代、帰省交通費、散髪代などを支援。

高校生は 1 年間 27,000 円 (事務費 3,000 円含) を 3 年間。学費、交通費などを支援。

【開始年度】 (中学生) 2000 年 (高校生) 2018 年

【里子数】 (2017) 52 (2018) 61 【里親数】 (2017) 50 (2018) 55



ネパール

【対象】 学習意欲があるが経済的に困窮したエカタアカデミーの児童・生徒

【支援期間・金額】 1 年間 12,000 円を学費・教材費として支援

【開始年度】 2011 年 1 月

【里子数】 (2017) 80 (2018) 78

【里親数】 (2017) 80 (2018) 78



ミャンマー

【対象】 小中高生、大学生

【支援期間・金額】 年間 15,000 円 (事務費 3,000 円含) を大学を卒業するまで支援。

医・歯学生は年間 63,000 円 (事務費 3,000 円含) を 12 回に分けて支給。

【開始年度】 1997 年 11 月

【里子数】 (2017) 259 (2018) 263

【里親数】 (2017) 240 (2018) 245



ラオス

【対象】 ビエンチャン県ハーサイフオン市のセンスリー小学校の児童

【支援期間・金額】 1 年間 1 人 12,000 円で授業料一部負担

【開始年度】 2009 年 3 月

【里子数】 (2017) 12 (2018) 20

【里親数】 (2017) 12 (2018) 18

アフリカ



エスワティニ (旧スワジランド)

【対象】 孤児や貧困家庭の小学生から高校生まで

【支援期間・金額】 1 年間 15,000 円を最低 2 年間

【開始年度】 1997 年 1 月

【里子数】 (2017) 57 (2018) 57

【里親数】 (2017) 57 (2018) 57



エチオピア

【対象】 ワン・ホープ・ガーデン (小学校) に通っていた児童

【支援期間・金額】 毎月 3,000 円で 1 年間 36,000 円。12 年生まで支援。

【開始年度】 2003 年 2 月

【里子数】 (2017) 20 (2018) 20

【里親数】 (2017) 20 (2018) 20

アジア ネパール

職業訓練校「クリエイティブ・トレーニング・センター」

概要：女性の識字率・就学率ともに低く、女性に対する教育の重要性が社会的に認知されていないため、女性の教育は必要ないという考えが強い。女性のエンパワーメントと生活向上のため、15～30歳の女性を対象に2005年1月に開校。カトマンズ、テチョ村、バラトプルへと、地域のニーズに合わせて場所を移動させながら、洋裁教室を実施。

現在は刺繍コースと洋裁コースを実施。

刺繍コースは年3回、3ヶ月で週6日4時間学ぶ。

洋裁コースは年1回、6ヶ月で週6日4時間学ぶ。

両コースとも WFWP 会員が講師を務める。卒業時には家庭道徳教育を実施。



洋裁の授業

他の教室に比べて、受講料が安いことが特徴。自宅で家事労働に従事するしかなかった多くの女性たちに、自立のチャンスを与える場となっている。

進展状況

【2017】

- 生徒数は42人。初級・上級コースに各3ヶ月で分けていた洋裁コースは最終的に6ヶ月の洋裁コースとなった。
- 同じバラトプル内の広い教室へ引っ越しした。
- 22人が卒業し、5人が収入を得られるようになった。

【2018】

- バラトプルで洋裁コースを1回、刺繍コースを2回実施。生徒数は9人。
- 6月、教室をニーズのあるチトワン郡コレシモル市へ移動。洋裁コースは3ヶ月の初級コースを2回実施。生徒数は10人。刺繍コースの講師が見つからず、実施できなかった。
- 2つの教室から19人が卒業し、3人が収入を得られるようになった。

卒業生の声

サムジャナ・シュレスタさん

「看護師の資格持っていますが、就職をすることができず、家で家事をするしかなく、悶々とする日々を送っていました。クリエイティブ・トレーニング・センターの事を近所の人から知り、刺繍や洋裁に興味があったのですぐに受講しました。銀行員の夫は時間のある時、糸にビーズを通してくれたりして、手伝ってくれるようになり、お陰で夫婦の楽しい会話も増えました。妻が楽しんでやっている姿を見て、夫は『これを続けてライフワークにしたらいい。』と励ましてくれています。私に新しい生きがいと希望を与えてくれたクリエイティブ・トレーニング・センターに心から感謝しています。」



アジア ミャンマー

職業訓練校「さくら専門学校」

概要：女性の経済自立を促進するために、最大都市ヤンゴン市内で2008年2月7日に開校。編物コースと洋裁コースがあり、いずれのコースも週2回、1回3時間。

編物は3ヶ月学ぶ。ビーズでバッグ、ネックレス、ぬいぐるみ、キーホルダーなど生徒が作製したいものを教える。

洋裁は初級コース・中級コースがあり、それぞれ3ヶ月学ぶ。初級コース3ヶ月でエンジー（伝統的シャツ）やロンジー（伝統的スカート）を7種類、中級コースでスカートを3種類、エンジーを5種類、ガウンを2種類作製。

いずれのコースも WFWP 会員が講師となっており、生徒からの信頼も厚く、技術的なこと以外にも、生徒のよき相談相手となっている。

進展状況

【2017】

- いずれのコースも平日に実施していたが、生徒が通いやすいよう、土日に実施するようになった。
- 洋裁コースでは服にビーズやスパンコールを付けたり、刺繍を施したり、手作りブローチを作ったりするので、人気がある。学んでいくうちに、デザイナーになりたい、お店を持ちたい、洋裁の先生になりたいと、生徒たちの夢も膨らんでいる。編物講師も手が空いたときは洋裁を教えている。
- 里子たちへ支援する制服も少しずつ作製し、その縫い賃が生徒たちの収入につながっている。
- 編物コースは編物3ヶ月、ビーズ3ヶ月を6ヶ月教えていたが、編物のニーズがあまりないので、バッグ、ネックレス、ぬいぐるみ、キーホルダーなど、生徒たちから要望のあるものを3ヶ月で教えるようになった。
- NGO「ジェンダー・グループ」のメンバーで、2016年に編み物コースで小物作りを学んだ卒業生6人が、「パンタジン」というビーズ小物を作製・販売するグループを作った。性的虐待を受けた女性たちに寄付収益の10%を寄付し、彼女たちに小物作りを教えるようになった。



洋裁の授業

【2018】

- 開校から10周年を迎え、順調に運営されている。

生徒数	編物	洋裁	合計
2017	17	24	41
2018	12	25	37